

福岡市長賞

元気に働く年寄りに

福岡市立百道中学校 3年

新田 梓

今年の五月に私は祖母を亡くしました。享年七十七歳でした。祖母は公務員を退職して、その後も行政関係をはじめ各種役員や地域のコミュニケーションリーダーとして、また高齢者施設などで朗読などのボランティア活動に元気に明るく活動していました。自分のエネルギーを無報酬のボランティアに捧げて地域社会に奉仕する祖母を誇りに思っていました。祖母は介護等、寝たきりになることなく発病後二週間という短い期間で、まるで桜の花が散るようにあまりに早く儂く散ってしまいました。人間は、とにかく長生きをしたがります。しかし、人生は長さではなく、内容ではないかと思えます。孫として悲しいことでしたが祖母は非常に充実した人生「天寿」を全うしたのだと思います。私も健康で楽しく生きて、周りに迷惑を掛けることなく天寿を全うしたいと思います。

この日本において、現在、百歳を超える方（センテナリアン）は四万人を超えるそうです。百歳というと以前は寝たきりのイメージが強かったのですが、なんと「現役」つまり実際にまだ働いている方も多いそうです。先日は福岡市内の知的障がい者施設の現役の園長の百四歳を祝う誕生会が報道されていました。「園長は介護保険は使っていないし、医療保険もほとんど利用していない。むしろ税金を納めて社会に貢献している。私達のお手本だ」との参列者のコメントが掲載されていました。

選挙の度に、国民に受けの良い「マニフェスト」等が掲げられます。私たち国民側も「子供手当」は欲しい。高速道路は無料にしてくれ、消費税増税は反対と考えます。国税庁の「日本の財政の現状と課題」を見て、国民の一人として私は何をすべきなのか考えました。そしてそれを実践しなければなりません。

国税庁のホームページでは、国民の2.5人に1人が六十五歳以上の高齢者という超高齢化社会が到来することが予測されています。「少子高齢化」で労働人口が減少する中、老人医療費がますます増える日本の財政事情が危ぶまれています。私ができることは、きちっと健康管理をして、元気に働き、公的な年金に頼らず所得を得て、納税すること。そして健康を維持して医療費を節約して、介護保険等に頼らないことではないでしょうか。

自分の人生を明るく、健康に積極的に考えて生きることが、国家の財政負担軽減にも繋がります。しかし、病気になれば働きたくても働けませんので、今、若い内から、長く仕事ができる能力を身につけ、将来の健康を考えたいと思います。高額納税者になれなくても、元気で長く働くことで生涯を通じて通算の納税額で国家と地域社会に貢献できる国民でありたいと思います。